



# 高鷲小学校 学校だより

2019年7月号

夢に向かい 共に創る子

すすんで学習  
思いやりの行動

あいさつ・言葉づかい

## かけがえのない命

校長 野々田光則

毎朝7時40分頃から、子どもたちは元気に校門をくぐってきます。その後、1年生はアサガオの様子を、2年生はトマト栽培の様子を見にいきます。「もっと、大きくなってほしいな」「今日は、葉っぱが黄色になりかけとるで、水をたくさんやらないと」「おっ、やっとトマトが黄色くなってきた」「僕のは、まだトマトが3つだけ…」など、自然界の生命の変化について気づいたり、疑問をもったりして世話をしています。

話は変わりますが、中学生や高校生から郡上についての話を聞くことがあります。最近では多くの生徒が「郡上的人是温かいと思う。人がいいと思う。」と話をしてくれます。これは、郡上が豊かな自然に恵まれ、人情味豊かで、ひたむきな生き方をしてきた多くの先人に支えられて、今日まで発展を遂げてきたことを、ふるさと学習（郡上学）などから学んでいるからだと思います。郡上のこのような環境で、「子どもたち一人一人が輝いてほしい、活力をもって輝き続けてほしい」という強い願いから、郡上市ではどの学校でも「命の教育」を進めており、命に対する豊かでしなやかな感性や深い感覚を磨いています。植物の世話をすることも、教科の授業とともに、「命の教育カリキュラム」に位置づいています。その「命の教育カリキュラム」は3つの命、『かけがえのない命』『輝く命』『支え合う命』を柱としています。

さて、もうすぐ夏休みが始まりますが、まず一番に大切にしたいことは、自分が授かった「命」は「かけがえのない命」であるということです。夏休みは、学校から離れ家庭や地域が一日の生活の場となります。いろいろな場面を通して、

○生命の尊重、すべての生物には命があり、命にはいつか終わりがあることを知る機会にも出会います。

○命はずっとつながっていること、命はかけがえのないものであることに気づき、命あるものを慈しみ、畏れ、敬い尊んだりする機会にも出会います。このことにより、自他の命の尊さや生きることのすばらしさも自覚していきます。

畑の野菜をいただくこと、生き物を育てること、家庭でお手伝いをするなど、また親せきで集まっ

たりお墓参りにいったりすることなど、これらを通して、子どもたちは「かけがえのない命」を大切にしていける心や態度を育てていきます。そして、自分が在るのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることも自覚していくでしょう。いろいろなことを感じて成長できるのが、この夏休みでもあります。「かけがえのない命」を大切に、心も体も大きくなった子どもたちに、夏休み後、出会えることを楽しみにしています。家庭での教育をよろしくお願いします。

